

## 小松市未来型図書館等複合施設基本計画(案)に関するパブリックコメントの結果について

### 1. 実施状況

【募集期間】令和7年3月7日(金)～21日(金)

【提出総数】7件

【提出方法の内訳】

電子申請	持参	郵送	Eメール	FAX	計
5	0	0	2	0	7

### 2. ご意見の概要と市の考え方

ご意見の概要	市の考え方
<p>【維持管理費について】</p> <p>改修は必要かと思うが大規模な改修には疑問を感じている。また、建設により小松市に利益には生れるのか。4億円を超える維持費に市民は納得できるのか。</p>	<p>【基本計画(案)4・8・92～101ページ参照】</p> <p>未来型図書館は、「小松市2040年ビジョン」に掲げる都市像の一つ「ワンランク上の生活空間あふれるこまつ」において、様々な活動や出会いが生まれる「まちづくりのキーステーション」として位置付けています。芦城公園エリアが花と緑に囲まれた次世代の文化教養ゾーンとして、新たな活気と賑わいを創出し、エリア価値の向上につなげていくことを目指しています。また、これまで経年による老朽化や機能・用途のあり方が課題とされてきた小松市公会堂や小松市立博物館、小松市立図書館を中心とした公共施設の集約・再編や機能の見直しなど公共施設マネジメント事業と一体となったプロジェクトとして検討を進めています。</p> <p>概算事業費については、現段階で施設整備費として約86億</p>

	<p>円、管理運営費は約4.3億円／年と想定しています。施設整備にあたっては、国の補助金等の財源確保に努めるとともに、施設的设计・建設・運営を一括性能発注する官民連携手法である「PFI方式」の導入を予定しています。これにより民間事業者のノウハウや創意工夫が発揮されるとともに、事業コストの縮減なども期待されます。今後も物価高騰が予想されることから、施設整備費及び管理運営については、市場の動向を注視していきます。</p>
<p>●全体として入れ物だけ良いものにして活用できないと考える。良い施設にしていくためには人材の確保・育成が必須である。また、子ども学芸員や市民学芸員を養成する、最新技術を取り入れていくなどと言えは聞こえは良いが、その点も含めての人材確保・育成のより詳細な記載が必要なのではないか。</p>	<p><b>【基本計画(案)9・64・107・126・127ページ参照】</b></p> <p>未来型図書館における「未来」の定義として、「小松の未来を共に創る」というテーマのもと、「まちを創る」「こと・ときを創る」「ひとを創る」の3つを掲げています。これらは、管理運営計画における重点戦略としても位置付けており、子どもや若者を中心とした未来を創造する人材を育てるとともに、未来型図書館の魅力や価値を高め企画・運営を支える人材を育てていきたいと考えています。</p> <p>また、これからの多様なニーズに応えていくためには、利用者自身が未来型図書館の整備や運営に参加する「利用者協働」の視点が重要であると捉えています。</p> <p>さらに、こまつリビングラボを中心とした共創による取り組みを将来に渡り持続可能なものにするため、小松の未来をつなぐ人を育てる人材の発掘・育成に取り組んでいくこととしています。</p>

<p><b>【カフェの導入について】</b></p> <p>県立図書館のように、カフェを併設してはどうか。本格的なカフェでなくても、サンドイッチなどの簡単なフードとドリンクで充分だが、そういった機能があることで、全く本に興味がなく、普段図書館に来ないような人達でも、コーヒーを飲みに来たついでに帰りにふらっと本を手にとってみるかもしれないと思う。自身も、借りたいと思う目的の本がなければ、なかなか図書館に足を運ぶ事がなく、カフェがあるとさらに気軽に足を運ぶのではないかと思う。</p>	<p><b>【基本計画(案)17・36・78ページ等参照】</b></p> <p>計画案に記載のとおり、未来型図書館等複合施設(以下「未来型図書館」といいます。)における市民の多様な交流・活動を支え、利用者が安心して集い、活動できる機能の一つとして、民間によるカフェの導入を予定しています。また、現在の図書館や博物館等の解体後の跡地についても公園としての整備のほか、民間事業者による任意提案としてカフェなどの設置を検討しています。本プロジェクトがスタートした令和3年度に実施した市民アンケートなどにおいても、カフェなどの飲食スペースの導入に関するニーズが高く、重要な機能の一つであると捉えています。市民の皆さんに気軽に足を運んでいただき、あらゆる人の居場所やコミュニケーションの拠点となるようなカフェの導入を目指します。</p>
<p><b>【博物館機能について 1】</b></p> <p>●自然史系の博物館機能を発揮するための計画になっているのか伺いたい。現在の小松市立博物館は自然史と人文の総合博物館であり、県内には市町単位の自然史博物館は当館のみで、低調ながらその機能を維持していると考え。博物館は収集、保管、展示、教育普及を柱とする活動を行うが、今回の基本計画では博物館としての役割を果たすには規模が小さすぎると考えている。また、人文系は文章では少し記載されているが、自然史系としての記載がまったく無いように思う。また、ハード面では 900 m<sup>2</sup>の広さで、収蔵スペースが自然、人文含めて 500 m<sup>2</sup>だとしたら狭すぎるのではない</p>	<p><b>【基本計画(案)17・18・30～33ページ参照】</b></p> <p>未来型図書館における博物館機能の基本的な考え方については、基本計画に記載のとおり、市内博物館・美術館ネットワークのハブとして特性やコレクションを活かした共同展示・事業などにより「つながりのある文化体験」を提供します。また、「収集・保管」「展示・教育」「調査・研究」の機能を強化しつつ、市民ギャラリーなど「発信・表現」を活かす市民が主役として活動する場を支援するとともに、市民や学芸員、有識者、クリエイター等が「共に集め・調べ・創り・発信」する共創型博物館を目指しています。</p> <p>市民との対話のもとで検討を進めてきた多面的な機能の確</p>

か。現館には貴重な資料として、野鳥、化石、昆虫といった、他館にはない資料が収集されていることをご存じであるのか。新計画では例えば普及活動としての現在の観察会や教室が維持されるのか。また、企画展示が定期的に行われるのか。石文化ばかりでなく、新計画ではさまざまな動植物や自然環境を学べるような博物館として機能するように、これまで以上に規模、予算、職員配置を進めるべきである。この基本計画では以上のようなことに配慮していないように感じており、自然史系の機能がこれ以上、縮小低下しないように、見直していただきたい。今後は実施計画に移行すると思うが、実施計画ではさまざまな有識者の意見を踏まえ、自然史系の博物館の規模、役割をハード、ソフト面から明確にすべきである。また、現在の基本計画においても、項目だけでも自然史系博物館を維持することを明確に示していただきたい。

●既存の剥製数を加算すると 2500 体以上となり、これは金沢の県自然誌博物館を抑え、県内で一番と思われる。この剥製数は日本的にも認められており、中央からの研究者も訪れている。これは本当に素晴らしい成果であるが、今回、全面的な新装と聞いたが、その内容を垣間見ると、これではあまりにも貧弱でお粗末すぎる。収蔵庫の面積については、これはどこの自然誌博物館でも一番の本命にしているところであるが、これでは狭すぎるのではないかと考えている。

保について、公共施設マネジメントの観点を踏まえた施設規模や市内公共施設との役割分担の中で機能配置を実現するため、博物館機能については、展示室・バックヤード約400㎡、収蔵庫約500㎡、市民ギャラリー約300㎡のほか、図書館の「テーマ配架」と博物館の「テーマ展示」を融合させた空間「コレクションハブ」約500㎡を想定しています。また、収蔵庫については、外から見ることができる「魅せる収蔵庫」の導入により展示機能を補完する役割を担うことも想定しています。

資料の収集・保管については、歴史資料(約1万点)や民俗資料(約6千点)を中心に想定しており、その他の資料(考古4百点、自然資料3万5千点、美術資料1万5百点)は、市内の既存文化施設等への再編を検討しているところですが、収蔵庫の規模は現博物館と同程度を想定していることから、自然資料の一部についても収蔵を検討しています。

市・地域全体で文化遺産や文化資源を保護し、文化的価値を高めていくためには、未来型図書館に限らず、市内の既存文化施設や学校、各種団体との連携なども通じて、地域全体の文化活動の強化を図っていくことが重要であると捉えています。これまでの博物館が担ってきた観察会や各種教室、自然環境などが学べる機会などについては、未来型図書館においても引き続き活動の継承を目指してまいります。

【博物館機能について 2】

●「企画展示」の項目があるが、常設展示の考え方はどのようなものなのかを記載したほうがよいのではないか。「地域の歴史文化」を発信する場であるならば、常に小松市の歴史文化が見られる必要がある。小学生の地域学習などに利用してもらえるように、また市外から訪れた方に小松とはどういうところなのかを知ってもらえるような常設展示が必要とされるのではないか。

●「市民学芸員や市民研究員などの仕組みをつくり」とあるが、既に存在する加南地方史研究会や博物館友の会などの既存の在野の研究者が疎かにされているのではないかと。

●「企画展示(有料)」とあるが、常設展示は無料を想定しているということなのか。「(有料)」はあえて書かなくとも良いのではないかと。

●「登録博物館として」とあるが、「公開承認施設の基準を満たす施設として」とした方が良いのではないかと。

【基本計画(案)17・18・30・31～33・69ページ参照】

未来型図書館における博物館機能の基本的な考え方については、前述のとおりです。

展示室やコレクションハブについては、常設展示ではなく、企画展や特別展をはじめ、日常的に変化する小さな展示により、訪れるたびに新しい発見がある魅力的な展示空間を目指しています。その中で、小松市の歴史や文化を象徴する貴重な資料を活かした展示を行うこととともに、施設の共用空間なども活用した展示空間の演出も検討していきます。

前述のとおり、市民や学芸員、有識者、クリエイター等が「共に集め・調べ・創り・発信」する共創型博物館として、既存の団体や研究者とも連携を図りながら、地域への愛着と誇りを育み、魅力を内外に発信していくことを目指しています。その中で、調査・研究の取り組みの一環として、市民学芸員や市民研究員などの市民参画の仕組みをつくることを検討するとともに、ご意見がありました団体等とも連携を図っていきます。

企画展示(有料)とある部分については、展示室を想定しています。図書館機能等と融合したコレクションハブや施設の共有空間なども活用した施設全体での一体的な展示については、市民の方が無料で小松市の歴史や文化にも触れられる工夫を図っていきます。

前述のとおり、博物館機能については、公開承認施設の基準を満たした施設として計画しています。

●「展示収蔵は、歴史資料、民俗資料を中心に想定」とあるが、資料の収集・保管という見出しの中に「展示」のことを述べるのは適切ではない。収蔵スペースの問題で、保管場所が既存文化施設になってしまうのは致し方ないところもあるかもしれないが、むしろこれを機に新しい施設に集約するという方向性にした方が良くはないか。

「市内博物館・美術館ネットワークのハブ」を目指すのであれば、歴史資料、民俗資料を中心に想定するのは愚策ではないか。むしろ小松市の特色である九谷焼などの工芸品を含む美術資料、タイプ標本なども所有している自然資料も全面に押し出して展示していくことが必要なのではないか。33 ページには「地域産業との連携」ともあり、九谷焼や繊維産業、機械工業などと連携ができる美術資料・自然資料などが展示できる設備を整えることは必須なのではないか。

現状の計画案では、「博物館」が単なる「図書館の展示室」に成り下がってしまう印象を受ける。市民活動の結果誕生した小松の博物館の名前だけが残っても中身は全く別物ということであれば、市民の誇りが失われてしまうのではないか。博物館と図書館は切り分けて考えてもよいのではないか。

●「魅せる収蔵庫」とあるが、公開収蔵庫に向くのは焼物などの考古資料・美術資料や、化石・岩石などの自然資料といった、外光の影響をあまり受けられない資料しか入れることができない。紙や木などの脆弱な素材でできていることが多い歴史資料・民俗資料の収蔵には向かないため、通常の(閉架の)収

市内の博物館・美術館施設と連携した企画展も含め、ご意見のありました展示についても検討していきます。

「魅せる収蔵庫」については、通常利用者が立ち入れない収蔵庫に透視性を持たせ、市が収集・保管する資料や文献等について、公開することで展示機能を補完するものと考えています。一方、外光や温度、湿度などに影響を受ける資料などは、「文化財公開施設の計画に関する指針」に基づき、適切な展示

<p>蔵庫も当然あると考えられる。その記載が必要なのではないか。(53 ページも同様)</p> <p>●「貴重な文献や指定文化財の資料等の借用」とあるが、「国宝・重要文化財や国立博物館を含む他者からの資料借用」とした方が良いのではないか。</p>	<p>及び保存環境の確保を検討していきます。</p> <p>「貴重な文献や指定文化財の資料等の借用」には「国宝・重要文化財や国立博物館を含む他者からの資料借用」を含めて想定しています。</p>
<p><b>【駐車場について】</b></p> <p>●安全のため、現在の図書館または、教育研究センター跡地に駐車場の整備を求める。理由は、道路を渡らなくても図書館へ行けるようにした方が安全と考えるためである。(小さな子供を連れて歩くのは難しいと考える)</p> <p>●上記の考え方から、年金事務所の立体駐車場屋上と図書館を繋ぐ橋を架けられないか伺いたい。</p> <p>●また、図書返却のみなど、一時的に訪問する場合の臨時駐車場の整備計画はあるのか。無ければ整備をお願いしたい。理由は、返却のみで遠くの駐車場に停めるのは利便性が低いと考える)</p> <p>●図書館へ送迎する車など、降車または乗車するためのスペースの確保をお願いしたい。(バス停のような、道路の退避スペースを想定)</p> <p>●足の不自由な方などのため、図書館に隣接した駐車場または車寄せの整備をお願いしたい。(別施設であるが、北陸新幹線小松駅は、自家用車で駅前まで近寄れるので便利。加賀温泉駅は自家用車で駅に近づけないので足が不自由な方の移動が困難となっている。図書館横に車寄せが必要と考え</p>	<p><b>【基本計画(案)32・77～89ページ参照】</b></p> <p>現在の図書館や博物館、教育研究センターの解体後の跡地については、未来型図書館と芦城公園の景観との調和や一体的な活用を図る観点から、公園施設として設置可能な「園路や広場」や「カフェなどの便益施設」の整備を想定しています。また、利用者の安全性を確保する観点からも人と自動車等との動線は分離することが望ましいと考えており、既存施設の解体跡地での駐車場整備は予定していません。</p> <p>このため、現在の駐車場計画では、市役所駐車場の1つ(年金事務所前)に立体駐車場の整備を想定していますが、引き続き、必要台数の算出とともに、既存の平面駐車場や周辺状況も踏まえ検討を行っていきます。</p> <p>また、一時的な降車・乗車スペースなどのあり方についても今後の未来型図書館の整備や車両の動線計画を踏まえた中で検討を行っていきます。</p> <p>搬入・搬出用の駐車スペースについては、未来型図書館は、展示室や市民ギャラリーなどの博物館機能を有することから貴重な文献や指定文化財の資料等の借用も想定し、耐火・耐震・安全性を備えた公開承認施設に対応した設備を整備すると</p>

<p>る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●イベント主催者や出演者、搬入用の、図書館に隣接した駐車場はあるのか。搬入口があるが、車を停めるスペースはあるのか。無ければ整備をお願いしたい。(團十郎芸術劇場うららをみても、主催者のトラック、自動車を停めるスペースが狭く、利便性が低い。)この点からも、現図書館に駐車場の整備をお願いしたい。</li> <li>●駐車場からの動線において、雪や雨が降った場合を想定し、屋根の設置を求める。何年か前の計画では、現在の図書館に駐車場を作る計画という認識は合っているか。この計画はどうなったのか。国有地であることや法制度の課題があるかとは思いますが、安全と利便性を考慮して現在の図書館を駐車場にしてほしい。駐車場台数も利用人数から計算されているが、イベント時には不足しないかと懸念している。</li> </ul>	<p>ともに、搬入・搬出用トラックの収容や開梱・梱包作業が可能なスペースを確保する計画です。</p>
<p>【表記について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●イメージ図の「往来が用意な」は「往来が容易な」ではないのか。</li> <li>●既存施設としての博物館の開館時間は 9 時～17 時ではないのか。</li> </ul>	<p>【基本計画(案)45・68ページ参照】</p> <p>ご指摘ありがとうございました。該当部分について、修正させていただきます。</p>
<p>【博物館機能について 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「最新の博物館の展示の例」として 4 枚の写真が掲載されているが、いずれの館も公開承認施設の承認は受けていないようである。基準を満たしている、もしくはいない旨を記載した方が良いのではないか。</li> </ul>	<p>【基本計画(案)46・47ページ参照】</p> <p>掲載した4施設については、文化庁の公開承認施設一覧への掲載はありませんが、図書館と博物館の融合の拠点「コレクションハブ」の空間や図書資料や研究資料などと融合した展示例等を参考イメージとして掲載したものです。</p>

**【アクセス・公共交通について】**

新しい図書館は、小松駅から1kmと歩くには少し遠い。年配の方等では歩くには辛く、悪天候時では歩くのを躊躇する距離である。計画では車及び自転車・バイクでのアクセスしか考慮されておらず高齢化社会に対して疑問が生じる。現状では、小松市役所付近にコミュニティバスが来る頻度は1日4往復しか存在しない(他に4往復存在するが、遠回りになりすぎる)。これは、現在運航しているコミュニティバスの運行経路が広範囲でありすぎるためだと感じる。市役所・図書館直行のシャトルバス、とまでは言わないが、この図書館を含めて市内中心部をもっとコンパクトに循環するコミュニティバス(例えば小松駅、幸八幡線、市民病院、末広体育館、桜木町交差点、市役所及び新図書館、細工町交差点、小松駅)を1時間に1本程度の頻度で運行できないか。

**【基本計画(案)79～89ページ参照】**

未来型図書館の目標来館者数については、年間40万人と設定しており、市内・市外から多くの方々に来館いただける施設を目指しています。いただいたご意見も踏まえ、未来型図書館の開館を見据えた交通サービスのあり方について検討していきます。